



“84本の竹あかり”託す思い 石巻市 大川小学校 の児童の遺族が中心となり追悼行事の準備〈宮城〉

NEWS
仙台放送

🕒 2022年2月8日 火曜 午後7:44

3月11日で発生から11年を迎える東日本大震災。津波で児童74人、教職員10人のあわせて84人が犠牲となった石巻市の大川小学校では、児童の遺族が中心となり竹あかりを使った追悼行事の準備を進めています。

この追悼行事は震災で犠牲となった人を悼み命を守るための教訓を未来につなごうと、大川小で我が子を亡くした遺族が中心となり企画したものです。

追悼行事では3月11日に大川小で竹あかりを灯す予定で、2月8日は全国各地で竹あかりの演出を手がける池田親生さんが現地を訪れ、遺族たちとともに竹あかりの製作を行いました。

大川竹あかりプロジェクト実行委員会 池田親生さん

「美しいものはいろんなものを超えていく。言葉でも伝えていくけど、日本のどこかで災害が起きた時にいろんな人の命が救えたり、困っている人たちを救えるような、そういったものになっていく」

佐藤和隆さんです。当時6年生だった三男・雄樹さんを亡くしました。佐藤さんは竹あかりを通して大川小で起きたことを多くの人に知ってほしいと考えています。

三男 雄樹さん（当時生6）亡くす 佐藤和隆さん

「災害に区切りはありません。鎮魂の意味もある竹あかりづくりを通して、防災や東日本大震災をみなさんに忘れないでほしい」